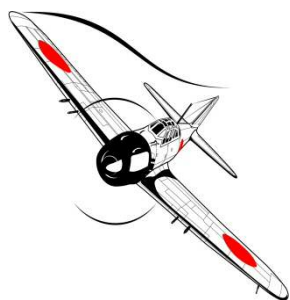


大宮西部図書館テーマ展示 (8月4日~16日) ブックリスト



戦争



~戦後70年にちなんで~

今から70年前【昭和20年8月15日】第二次世界大戦が終戦。

日本は、4年間戦い敗戦しました。

戦争中は、戦地へ行く人—本土で空襲を受ける人—明日という命の保証がなく、人々が生きたくても生きることが出来ない時代でした。

今回の展示では、激戦地で戦った人や空襲・原爆についての様々な体験、様々な思いが綴られた本をご紹介します。

また、戦争を知らない世代（現在日本では88%を占めている）が増えるこの世の中で、近頃では、むごい殺人事件も多発しています。

戦後70年という今、戦争無き永遠の平和と命の尊さを再確認して頂けましたら幸いです。



ご紹介する本はさいたま市図書館で所蔵しております。



☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆展示本のご紹介☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

* 「かわいそうなぞう」 つちやゆきお／ぶん 金の星社

戦争は、人間だけではなく、動物たちの命にも影響を及ぼしました。上野動物園では空襲で檻が壊された際の猛獣逃亡を考え、ライオンや熊の殺処分を決定しました。残されたのは象の3頭ジョン、トンキー、ワンリー（花子）。しかし、最後には、この象たちも世を去りゆいてしまいます。

* 「あの夏の日」 葉祥明／絵・文 自由国民社

長崎に原爆が投下された「あの夏の日」を長崎市の協力のもと、筆者が、壮烈なタッチでそれぞれの瞬間を描いたものです。（生活を一変させた原子爆弾の恐ろしさを伝えています。）あとがきに於いては、核兵器を廃絶し戦争のない平和な地球を次世代に手渡すことのも責任をも述べています。

* 「生きんと、あかん」 日向道子／著 けやき書房

神戸の小学校6年生芽実と健は、作文の宿題のためにおじいちゃんとおばちゃんに戦争の話をお聞きます。健のひいおじいちゃん戦争前には豪華客船でヨーロッパを航海するお仕事をしておりましたが、戦争が始まり船は日本軍のものになり、米軍に撃沈されてしまいます。芽実のおばちゃんも大切な親友・家・宝物を神戸の大空襲で失くしてしまいました。恐怖で震える空襲やひもじい疎開生活など、戦争を知らない子供達にお話しタッチで語り継がれている戦争の児童書です。

* 「特攻へのレクイエム」 工藤雪枝／著 中央公論新社

特攻とは、特別攻撃作戦というもので、第二次世界大戦末期に日本軍が戦局挽回のために採用した「十死零世（生き残る可能性ゼロ）」ともいえる体当たりの戦法です。敵陣へ片道だけの燃料を積み戦闘機で飛び散華した英霊者の数は、約7000人。著者は、日本の戦状と特攻隊員の魂の結晶を作品に記し後世の平和を願うものです。

* 「鎮魂 特別攻撃隊の遺書」 原勝洋／編者 ベストセラーズ

特攻隊員として、この世を去った方々の写真・遺書・名簿が記されている一冊。

* 「黒い雨」 井伏鱒二／著 新潮社

ヒロシマで被爆して数年後、重松とその妻は原爆の後遺症を患っていました。一方同居する姪の矢須子は、直接被爆していないが、原爆病患者だと誤解され縁談がまとまらないため、重松は日記を清書し誤解を解こうとする中で、悲惨な原爆体験が再現されます。矢須子は、原爆投下の日に放射能が含まれている黒い雨をあびていたため重度な原爆症となる。著者はこの中で、原爆の怖さ、発病の恐怖、命の尊さを訴えています。

* 「ノーマン・ロジャース 原爆写真」 黒古一夫／編 日本図書センター
原爆投下による広島・長崎の写真の記載。「核」の恐ろしさを克明に描写されている。

* 「総図解よくわかる第二次世界大戦」 倉山満／著 新人物往来社
第二次世界大戦を分かりやすい図解で解説する。歴史的な主要な人物や戦争の作戦や取り交わされる条約などが記載されている一冊。中学生におすすめ！の本です。

【児童書】

- * 「えんぴつびな」 長崎源之助／作 金の星社
- * 「原爆の火」 岩崎京子／文 新日本出版社
- * 「Oじいさんのチェロ」 ジェーン・カトラー／作 あかね書房
- * 「まちゃんと」 松谷みよ子／文 偕成社
- * 「かあさんのうた」 大野允子／文 ポプラ社
- * 「火垂るの墓」 野坂昭如／原作 徳間書店
- * 「ガラスのうさぎ」 高木敏子／作 金の星社
- * 「戦争童話集」 野坂昭如／著 中央公論社
- * 「二十四の瞳」 壺井栄／著 金の星社

【一般書】

- * 「炎の記憶」 近藤信行／著 新潮社
- * 「日本のいちばん長い日 運命の八月十五日」 半藤 一利／著 文芸春秋
- * 「語り継ぐ戦争 一〇〇〇通の手紙から」 朝日放送／編 東方出版
- * 「15歳が聞いた東京大空襲」 早乙女勝元／編著 高文研
- * 「昭和二十年夏、子供たちが見た日本」 梯久美子／ 角川書店
- * 「戦争で死ぬということ」 島本慈子／著 岩波書店
- * 「終わらざる夏 上・下」 浅田次郎／著 集英社
- * 「大空のサムライ かえらざる零戦隊」 坂井三郎／著 光人社
- * 「ヒロシマはどう記録されたか」 NHK 出版／編 日本放送出版協会
- * 「ひめゆりの塔」 石野径一郎／著 講談社
- * 「アンのゆりかご 村岡花子の生涯」 村岡恵理／著 マガジンハウス
- * 「八月 原爆詩集」 合同出版編集部／編 合同出版

【写真集】

- * 「なみだのファインダー」 松重 美人／著 ぎょうせい
- * 「日本大空襲 日本列島を焼き尽くした米軍の無差別爆撃」 新人物往来社
- * 「特攻作戦 大空に散った青春 若者たちの熱き思い」 新人物往来社



第二次世界大戦（日本への主な来襲〈空襲〉について）メモ

昭和16年12月 日本はハワイの真珠湾攻撃において参戦

最初優勢だった日本軍も情勢が厳しくなってくる

昭和19年6月～ 米軍はB29の戦略爆撃を開始（多数の爆撃機が目標に向い空襲する）日本軍はサイパン・テニアン・グアムを制圧される

本土初の爆撃：北九州、八幡製鉄所（兵器の鉄を狙われる）が空襲

11月 テニアン・グアム基地から東京地区初空襲

戦略目標は・・・飛行場、港湾、軍需工場（飛行機工場）造船所
鉄鋼・銅製造（砲弾・銃弾工場）通信機器製造など多数が標的となった：川崎製鉄所などが被害にあった。この時点で爆撃機は80機～90機が来襲

その後戦略目標以外にも、橋、鉄橋、駅、学校なども空襲を受ける
空爆が多く一般市民も絶えず空を気にする状況になった

昭和20年3月 10日：東京大空襲 12日：名古屋大空襲

13日：大阪大空襲 17日：神戸大空襲 があり大都会は破壊された この時は、500機のB29が来襲 爆撃には普通、爆弾を使うが、米軍は爆弾を開発したナパーム弾（焼夷弾・爆発前に周囲に飛び散り火傷や火災を狙う）を使用

4月 戦艦大和沈没

6月 沖縄戦 福岡大空襲

7月 仙台大空襲

8月 6日広島に原子爆弾投下

9日長崎に原子爆弾投下 15日埼玉県深谷市空襲

15日正午 玉音放送が行われる --- 日本、ポツダム宣言を受諾し降伏 → 終戦